

「スピリチュアルケア」はどこで行われるの？



鎌田東二



申し訳ありませんが、

- ごく最近の個人的な経験から話をさせていただきます。
- お許してください。
- 非常に私的な個別の具体的経験と事例から、「スピリチュアルケア」の定義という課題に取り組みたく思います。

つい最近

- わたしはととてもとても親しくしてきた大切な同志的な友人を2人、相次いで亡くしました。
- 一人は、2015年7月22日に。
- もう一人は、2015年8月31日に。

- その一人が、大重潤一郎さん、69歳。
- もう一人が、岡野恵美子さん、70歳。

今から17年前の、

- 1998年8月8日、大重潤一郎さんとわたしは、淡路島と神戸にいました。
- 早朝5時46分に、淡路島の突端から祈りを捧げ、
- 午後には、対岸の神戸メリケンパークで、阪神淡路大震災で亡くなった方々、痛みを感受した方々の鎮魂の催しとして、「神戸からの祈り～満月祭コンサート」を開催しました。
- その神戸実行委員長を神戸在住の大重潤一郎氏が務め、わたしが代表を務めました。

以来、17年、

- 一緒に、同志として、さまざまな事を共にしてきました。
- NPO法人沖縄映像文化研究所(理事長・理事として)
- NPO法人東京自由大学(理事長・副理事長として)
- 「久高オデッセイ」三部作製作(監督・製作者として)
(2006年「久高オデッセイ第一部 結章」
2009年「久高オデッセイ第二部 生章」
2015年「久高オデッセイ第三部 風章」)

大重潤一郎 7月22日死去 映画監督 1946-2015 久高オデッセイ 三部作

沖縄の自然・文化記録

大重潤一郎氏 69歳（おおし



げ・じゅんいちろう）映画監督、沖縄映像文化研究所理事

長）22日、肝臓がんで死去。告別式は28日午前11時、沖縄県豊見城市豊崎1の200サンレール豊崎紫雲閣。喪主は長男、生（せい）氏。

鹿兒島県出身。岩波映画で演出を学び、自然や伝統文化をテーマとし、2003年にはベルリン国際映画祭に「小川プロ訪問記」が正式招待された。脳出血やがんと闘いながら撮影を続け、沖縄県・久高島の暮らしや祭事を記録した「久高オデッセイ」第三部風章」が遺作となった。

「久高オデッセイ」大重潤一郎さん死去
映画監督、69歳



映画「久高オデッセイ」な

どで知られる映画監督の大重潤一郎（おおしげ・じゅんいちろう）さんが22日午後4時41分、肝臓がんのため那覇市の病院で死去した。69歳。鹿兒島県出身。しのぶ会（通夜）は27日午後6時から、お別れ会（告別式）は28日午前11時から正午、ともに豊見城市豊崎1の200のサンレール豊崎紫雲閣で。喪主は長男生（せい）さん。

大重さんは岩波映画製作所を経て独立。自然と伝統文化をテーマに映画を作った。主な作品は、祭祀イザイホーなど久高島の伝統文化に焦点を当てた長編記録映画「久高オデッセイ」のほか「黒神」「光りの島」「風の島」「縄文」など。2002年に活動拠点を沖縄に移し、NPO法人沖縄映像文化研究所理事長を務めた。ことし6月完成の「久高オデッセイ 第3部「風章」」（沖縄、東京などで順次公開中）が遺作となった。遺族はしのぶ会、お別れ会に平服での参列を呼び掛けている。

久高島を撮影

大重潤一郎さん（おおしげ・



じゅんいちろう）映画監督）22日午後4時41分、肝臓がんの

ため那覇市内の病院で死去、69歳。鹿兒島県出身。自宅は那覇市曙。偲ぶ会（通夜）は27日午後6時から、お別れ会（告別式）は28日午前11時から正午、いずれも豊見城市豊崎1の200のサンレール豊崎紫雲閣で行う。喪主は長男生（せい）さん。

岩波映画製作所で学び、独立。久高島に半世紀近く通い、2002年移住。04年から17回のがん手術を経ながら「久高オデッセイ第一部結章」「第二部生章」を制作、今年6月に「第三部風章」を完成させたばかりだった。

上から(読売新聞・琉球新報、沖縄タイムズ)
海を描く、水を描く
海人を描く
風を描く、気配を描く

「神の島」へ捧ぐ最終章

「神の島」といわれる南城市・久高島で、電動車いすを走らせる白髪の男がいる。眼光は、余命1年とほど思えないほど強い。映画監督の大重潤一郎さん(68)「那覇市。半世紀にわたり島に通い続け、妻ともいえる3部作『久高オデッセイ』の撮影がクランクアップした。」

(矢島大輔)

映画監督 大重潤一郎さん(68)



▲DVD発売 久高島 琉球閉じやんの祖アムキヨ
空から降り立った伝説から「神の島」と呼ばれる。琉球
王国の頃から祭祀が盛んで、12年に1度、島の女性30〜4
0人が神女「フロ」を頂点とする祭祀集団の一員となる秘祭
「イザイホー」で全国的に知られる。過酷による後継者不
足が深刻となり、1978年を最後に途絶えた。一回7・
8の土地に、現在は273人が暮らす。

電動車いすで移動する
大重潤一郎さん(左)
と、助監督の比嘉真人
さん=5日、久高島

余命1年 久高の日常撮影



イザイホーの最後の経験者である神
人たち(手前3人)が引退する儀式。
大重さんも近くで見守った=2008
年、久高島

5日、久高島。本来は12
年に1度の秘祭「イザイホ
ー」が行われるはずだった
広場に、大重さんの姿はあ
った。

視線の先には、涙を流す
白装束を着た若い女性。彼
女は神人で、島の祭祀を
司る。後継者不足のため、
島最大の神事が行えなかつ
たことを神にわびていた。

「この島にはよ、太古か
ら人間がいかに生きてきた
かを示すものがあるんだ
よ」と、大重さんは言う。

鹿児島出身。岩波映画
製作所で学び、独立。神戸
市に住んでいた1995
年、阪神大震災に遭遇した。
高層ビルがなぎ倒され、壊
滅状態の街を歩き、文明の
非力さを痛感した。一方、
アスファルトのひび割れか
ら芽吹く、植物に驚きつけ
られた。

久高島には半世紀近く前
から通っていた。親交のあ

った写真家、故・比嘉康
さんの遺言を記録するた
め、2000年に本格的に
島に渡った。命がけの漁
に出る男たちの無事を祈り、
神事を続ける女たち。やは
り土地で、わずかな恵みを
分かち合う原始共産制のお
ごり。聖地への立ち入りも
禁じる畏敬の念。「日本十
の魂の原郷」という比嘉さ
んの言葉にうなずいた。

02年に島に移住し、「ケ
高オデッセイ」の撮影をほ
めた。強烈ないびきについ
て近所から苦情を言われな
がら、島民と泡盛を酌み交
わし、打ち解けていった。
04年に脳出血を起し、
右半身がまひ。17回のがん
手術を経て、昨年末に余命
1年を宣告された。それで
も、電動車いすにカメラを
据え付け、患者の制止を無
り切って島に戻った。神
秘的な祭祀が注目される
が、むしろ何げない日常の
風景にこそレンズを向け
た。

「失つちやいけないもの
が地下水脈のように流れて
いる。現代の荒波を乗り切
えていくヒントを映し出
たい」

叙情詩の意味を込めた夕
イトルの映画は2部まで公
開され、今春に3部が完成
する。「日本一眠くなる」
と評されるほど、太古のリ
ズムを刻むようなゆったり
とした描写が印象的だ。

5日、神人の祈りが終わ
ると、辺りは静けさに包ま
れた。大重さんは石垣の上
に咲こころとするハイビスカ
スのつぼみに気付き、そつ
とカメラを向けた。

朝日新聞

2015年
7月4日朝刊

余命半年 銀幕に刻む神の島

日常・祭祀追い両国で島外初上映

「神の島」と言われる沖縄県の久高島で1970年代に途絶えた秘祭「アサイホー」。その復活を目指す島を12年にわたり撮り続けた映画が完成し、都内でも上映される。がんで余命宣告された大重潤一郎監督（69）那覇市は言う。「人間はいかに生きるべきか。その手がかりが、この島にある」

那覇の69歳大重さんが3部作

沖縄本島の東に浮かぶ久高島の女性が祭祀集団に新たな高島。周囲約8キロ、島民約200人。12年に1度、島できた。しかし、過疎化に



聖地「フボー御嶽（うたき）」で、イザイホーを最後に経験した神人たちが呵斥の儀式を行った

「いかに生きるべきか 島に手がかり」

よる後継者不足で78年を最後に途絶えていた。

大重さんは鹿児島出身で、岩波映画製作所を経て独立。神戸市に住んでいた1995年1月、阪神大震災に遭い、文明の非力さを痛感したという。その後、「自然と人間の関係」が制作テーマになった。

久高島に渡ったのは2000年。島で写真を撮り続ける写真家、比嘉康雄さん（1938〜00）の姿をカメラで追った。小舟で命懸けの漁に出る男たち。神事を執り行い、無事を祈る女たち。比嘉さんはこの小島を「日本人の魂の原郷」と語っていた。

脳出血で半身不随

02年、この年も秘祭はなかった。大重さんは12年後

までの島を撮影しようとした。島民と泡盛を酌み交わし、打ち解け、秘祭の復活を待った。04年に脳出血で倒れ、右半身不随に。がんも見つかった。それでも、電動車椅子に力メラを据えて撮り続けた。

長い長い冒険……。映画「久高オデッセイ」は、島の日常と祭祀を追った「第一部 結章」が06年に、秘祭で生まれた現役最後の「神人」の女性が70歳の定年を迎える姿を追った「第二部 生章」が09年に完成した。日が昇り、沈む。クバの葉が風に揺れる。ゆつたりとした時の流れ。大重さんは「太古のリズムを映像に刻んだ」と話す。

がんの手術17回も

がんの手術は17回に及んだ。



右半身がまひし、電動車椅子に力メラを据え付けて撮影する大重潤一郎さん（いずれも2008年、沖縄・久高島）

だ。「生きていくのが不思議」と担当医師に言われ、昨年末に余命1年を宣告された。介護付きアパートで激痛に耐えながら、編集作業を続けた。

今年6月、「第三部 風章」が完成。首都圏の人たちにも見てほしいとの大重さんの思いに、NPO法人「東京自由大学」が応え、上映会が実現した。今年初めの秘祭も神人が足りず、行われなかった。第三部のクライマックスは神事の日に神様にむける唄を泣きながら歌う若い女性の姿だ。

地下水管がわき出るような歌声であった。祭りのは途絶えているが、祭りの命は息づいている。12年間待っていた島の姿を確認した。大重さんは病床上で、声を振り絞るようにナレーションを吹き込んだ。

5日に墨田区の東京・阿国シアターX（カイ）である島外初の上映会は、予約ではほぼ満席になった。8月に京都市の「愚文社一乗寺店」、9月に渋谷区のアツブリックで上映予定。問い合わせは東京自由大学（03・3253・9870、平日のみ）。（安島大輔）

琉球新報

2015年 7月28日朝刊

大重潤一郎氏を悼む

須藤 義人

映画監督の大重潤一郎が7月22日に69歳で亡くなった。彼は「ドキュメンタリー映画の奇才」であった。作品の軌跡を辿ると、自然や伝統文化を主なテーマとし、「人間の根源」に絶えず目を向け続け、今の私たちが如何に生きるべきかを提示し続けていることが分かる。

インタビューを持っていた。その地は、黒潮の流れが琉球列島から辿りつく場所でもあった。「海賊の末裔」を自称する大重は、海に生かされる人間の生き様を幼心ながら体感していた。

「人間の根源」に目向け続け

1946年に生まれた大重は、先祖代々の土地であった鹿児島県坊津にアイデ

ルンティイを持っていた。『黒神』の舞台は核島であり、まさに大重の少年期の原風景と重なるものがあった。

た。奄美と沖縄の移住者たちが祭りにおいて島唄を唄い、舞い踊る姿は、幼いながらも脳裏に鮮烈に刻み込まれた。南島や東南アジアへの憧憬が生じた瞬間であった。

2000年、大重の映画人生に転機が訪れる。その契機は、沖縄の聖なる島・久高島に住む人々を撮り続けてきた写真家、比嘉康雄からの撮影の依頼であった。末期ガンであった比嘉が「死を迎える前に残したいメッセージがあるので収録してほしい」と舌を掛けたのである。収録の2週間後、比嘉康雄の魂は「原郷のニライカナイ」へと旅立っていった。その映像は01年に纏められ、『魂の原郷ニライカナイへ』比嘉康雄の魂として世に送りだされた。

02年、大重は琉球弧の古層を記録することを決心し、神戸から沖縄に移り住んだ。まずは那覇に拠点を構え、制作活動のために、「NPO法人沖縄映像文化研究所」を設立した。「神の島」と呼ばれる久高島を記録するために支援者を募った。12年間にわたって記録する『久高オデッセイ』

重はニライカナイへと向かうとしていた。その魂に共鳴し、助監督の比嘉真人が遺作の最後に持ってきた言葉があった。：東の海の向こうには、ニライカナイがあるとされている。しかし、この島こそが、この地上こそがニライカナイではないかと思えてくる。この言葉は大重自身が病床でナレーションを吹き込んだ。

実は、次回作として「海洋アジア」の3部作が構想されていた。その潮流は、久高島の見える百名に祖先をもつ比嘉真人に引き継がれ、海民の記録の旅が託された。大重潤一郎の魂は、いま肉体を脱ぎ捨て、新たな旅立ちを始めようとしている。虚心合掌。(映像民俗学・沖縄大学准教授)



インタビューに答える大重潤一郎氏—2003年1月

インタビューに答える大重潤一郎氏—2003年1月

（3部作）は、海に生きる人々を見続けてきた大重映画の到達点を自指したものであった。

遺作となった『久高オデッセイ第三部・風章』は多くの人に支えられ、プロデュサーの鎌田東二（宗教学者）と助監督の比嘉真人の尽力によって、6月21日に久高島で誕生した。この作品を手に1カ月後、半身不随でガンと生きてきた大重は、次回作として「海洋アジア」の3部作が構想されていた。その潮流は、久高島の見える百名に祖先をもつ比嘉真人に引き継がれ、海民の記録の旅が託された。大重潤一郎の魂は、いま肉体を脱ぎ捨て、新たな旅立ちを始めようとしている。虚心合掌。(映像民俗学・沖縄大学准教授)

◇お別れ会(告別式)は28日午前11時から豊見城市のサンレー豊崎紫雲閣で。

2015年
10月3日

上智大学で
「久高オデッセイ
三部 風章」

上映会＋
シンポジウム
を行ないます。

「光」は、生命を生み出した。
「生命」は、生と死のはざまを、渚のようにただよう。
そして、「風」は、生命を死へとつなげていく。

大重 潤一郎 監督作品 長篇記録映画

『久高オデッセイ』三部・風章



シンポジウム 『久高オデッセイ三部風章』と大重映画が問いかけるもの

講師：高木 慶子（上智大学グリーンケア研究所特任所長、「生と死を考える会」全国協議会会長）
島蘭 進（上智大学グリーンケア研究所所長、東京大学名誉教授）
鎌田 東二（京都大学こころの未来研究センター教授、「久高オデッセイ三部風章」制作委員会副実行委員長）

日時：2015年10月3日（土）

開場 13:30
開演 第一部 上映会 14:00
第二部 シンポジウム 16:00

場所：上智大学 10号館講堂

料金：一般 1,500円 学生1,000円（事前予約は不要）

主催：上智大学グリーンケア研究所
問い合わせ先 上智大学グリーンケア研究所
電話 03(3238)3776 FAX 03(3238)4661
E-mail griefcare@sophia.ac.jp

シンポジウムは

■ 高木慶子先生

■ 島菌進先生

■ 鎌田東二

で行ないます。

『久高オデッセイ』第三部・風章 2015年/カラー/95分

監督 大重潤一郎 製作 鎌田東二 音楽 新実徳英 語り 鶴田真由
助監督 比嘉真人 / 演出助手 高橋あい / 撮影 畑田泰寛 / 録音 市川文武
写真 比嘉康雄 / 製作 岡野恵美子 山田宏道 / 制作協力 NPO法人 東京自由大学

『久高オデッセイ』について

『久高オデッセイ』の舞台である沖縄・久高島は、沖縄本島の東海上に浮かぶ人口200人ほどの小さな島であるが、魂の原郷、あるいは神の島として崇められてきた。久高島は、琉球の創世神アマミキヨが天からこの島に降りてきて国づくりを始めた地、人の魂の戻る場所そして再生する場所であるニラーハーラー（ニライカナイ）に繋がる琉球神話の聖地である。久高島の名が広く知られているのは、ひとえに「イザイホー」の祭りの所以であるが、12年に一度の「イザイホー」の祭りは、神女となる後継者の不足により1978年を最後に途絶えてしまっている。

『久高オデッセイ』は、2002年から2014年までの12年間におよぶ久高島の姿を「第一部結章」、「第二部生章」そして「第三部風章」の三部作で捉えた長編記録映画である。

今回上映する「第三部風章」の制作にあたって、大重監督は、次のように述べている。

古代以前の時代に出遭った・・・という感覚こそが、魂のすかたかもしれない。黒潮に育まれた人びとを通じて、古代以前の世界、いわば原初の世界が見えてくる気がしている。それゆえ、私たちスタッフは、第三部を〈原点回帰〉へと誘う「風章」と名づけ、魂の道草からはじめたいと思っている。まず、イノー（岩礁）の生命圏、小さき森の自然、荒ぶり風ぎる風を感じる映像から、撮影にとりかかる。そして、先人たちの足跡、人々の生と死、育まれる命の息吹、死にゆく命の鼓動、人生儀礼としての祭礼へとつないでいく。最後に、人間の魂が身体を脱ぎ捨て、海の彼方へ、原郷のニライカナイへと帰っていく姿と向きあいたい。



大重監督近影

大重監督は、1946年鹿児島生まれ。岩波映画の助監督となり、ドキュメンタリーを学ぶ。1995年に阪神淡路大震災に遭遇、その惨状を身をもって体験する。そこで 得た経験から、自然に対する畏敬の念が益々深まり、2002年に沖縄に移住し『久高オデッセイ』の撮影を開始する。2004年に脳内出血で倒れ、さらに17回の肝臓癌手術を受けながら、電動車いすにカメラを括りつけて、医者の制止を振り切って撮影を続けた。昨年に余命1年と宣告されながら、転移した癌の激痛に耐えながら、本年6月に「第三部風章」を完成させた。2015年7月22日逝去。享年69歳。「久高オデッセイ第三部 風章」が遺作となった。

シンポジウム

「『久高オデッセイ第三部風章』と大重映画が問いかけるもの」

鎌田 東二、島菌 進、高木 慶子

大重監督は、『久高オデッセイ第三部風章』において、久高島の自然と人々に営みをとおして、古代から受け継がれて来た死生観、精神文化を見事に捉えている。いのちを生み出す大いなる存在への畏怖畏敬の念と愛惜の情、生と死の意味、心の平安、そして信仰...多くのスピリチュアルな問いかけを我々に投げかけている。『久高オデッセイ』の制作にかかわり、あるいは大重監督と親交のある3名が『久高オデッセイ』について語る。

上智大学 四谷キャンパスアクセスガイド



この大重潤一郎監督の記録映画 「久高オデッセイ第三部 風章」は、

まさしく、わたしの感じ、考えている

- 「スピリチュアルケア」

の映画だと思っています。

もう一人、亡くなった岡野恵美子さんは

- この「**久高オデッセイ第三部 風章**」制作実行委員会の**事務局長**を務めてくれました。

わたしとは、1983年以降、

- 鎌倉での「古事記研究会」
- 東京大井町での「霊学自由大学」
- 「天河曼陀羅実行委員会」
- 「宗教を考える学校」
- 「**神戸からの祈り**」「東京おひらきまつり」
- 「**天河護摩壇野焼き講**」
- 「**NPO法人東京自由大学**」

などの事務局長や運営委員長などを務めてくれ、本当に同志的な朋友でした。

2009年8月26日(水)～30日(日)(4泊5日)

「日本最奥の秘教の聖地・天河～高野山をめぐる～知行一致のスーパーマン・弘法大師空海と姫神ネットワークの謎」

- 弘法大師・空海は修行僧だった青年の頃、高野や天河を彷徨い、姫神たちの神力とネットワークの加護を受けて秘密加持力と情報力を高め、後年、高野山を開山しました。2009年8月末、その空海ゆかりの地をめぐるゆきます。東京自由大学ならではの超豪華キャストの現地案内人の宮司さんや住職さんに導かれて、「目からウロコ」のディープな手法とプログラムで。日本の神仏習合の拠点、天河、高野山、丹生都比売神社etc。神仏の出逢いのかたちをこの身、この心で共に実感しましょう。南無南無南無南無南無...

- 場所：天河、高野山、丹生都比売神社
- 宿：天河民宿、高野山本王院、丹生都比売民宿
- 講師：近藤高弘（陶芸家・美術家）、柿坂神酒之祐（天河大辨財天社宮司）、丹生晃市（丹生都比売神社宮司）、高野山僧侶

引率：鎌田東二、担当：岡野恵美子

2015年8月29日に、

NPO法人東京自由大学(神田)で行なった、

- 「久高オデッセイ第三部 風章」制作実行委員会事務局長・岡野恵美子さんの挨拶。この2日後の8月31日に、本当に突然、亡くなりました。



8月31日20時38分のNHKニュースでは次のように報道されています。

横浜市で住宅火災 女性死亡

31日午後、横浜市金沢区の住宅が全焼する火事があり、この家に住む70歳の女性が死亡しました。

31日午後3時50分ごろ、横浜市金沢区

釜利谷西の岡野征治さん(76)の住宅から火が出ていると、岡野さんの妻の恵美子さん(70)から消防に通報がありました。

この火事で木造2階建ての住宅が全焼し、恵美子さんは消防に助け出されましたが、搬送先の病院でおよそ2時間半後に死亡しました。

警察によりますと、岡野さんは妻と2人暮らしで、火が出た当時、岡野さんは外出中だったということです。

警察は、恵美子さんが自分で通報したあと火事に巻き込まれたとみて、火が出た原因を調べています。

現場は、横浜市立金沢動物園から南に200メートルほど離れた住宅街の一角です。



岡野恵美子さんは、

- 近隣への類焼を防ぐために、
- 自ら消火器を持って、消火活動を続け、
- 火煙に取り巻かれ、
- 逃げ遅れて、亡くなりました。



天河護摩壇野焼き講 事務局長：岡野恵美子さん

野焼き後

野焼き前

岡野恵美子
さんの解器



解器
ほごき



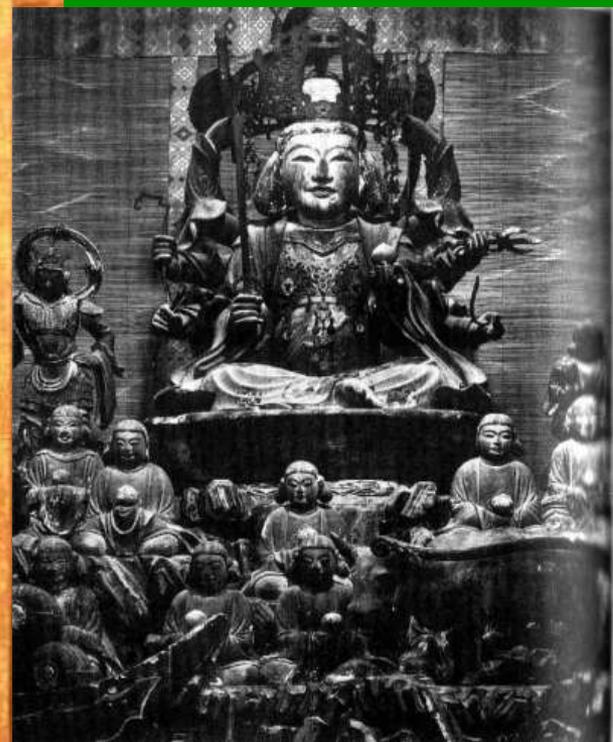
岡野恵美子さんが事務局長を務めてくれた「天河護摩壇野焼き講」の「ホドキ(解器)」制作は、 現代の死生学実践である。

- 生を「**むすび**」にとらえるなら、死は「**ほどき**」。
- 神道は「**むすび**」の信仰であるが、
- 仏教は「**ほどき=ほとけ**」の認識と信心。
- 「**むすびの器**」制作から、「**ほどきの器**」制作へ至る中で、いのちの帰趨を観想する。
- 「ホドキ」は、1度作ったものを1回壊して、粉々にしてもう一度、新しい粘土に混ぜて作り直す作業過程を持ち、丸2年がかりで、合計4回焼き上げる。
- 「**ホドキ・ワーク**」は、現代における一つの死生学的瞑想である。



神仏習合の拠点

吉野熊野中宮



天河大辨財天社秘神・日輪天照弁財天 60年に1度御開帳





2009年11月22日 「世界一美しい」 天河火間(窯)の造営 初窯火入れ式

- 設計：**近藤高弘**（陶芸家・造形美術家）
- **天河護摩壇野焼き講**（**1996年に結成し、1997年2月3日の節分祭において、第1回目の護摩壇野焼きを行う。**以来毎年継続し、本年2015年2月3日で、19回目となる。来年は20回目の節目となる。
- わたしは、1984年4月4日より、250回以上訪れて、長年フィールド研究をしてきた。
- その中で、護摩壇野焼き講を結成し、その過程で、財団法人・天河文化財団の協力により、天河火間が誕生し、「**解器(ほどき)**」制作も始まった。
- 空海は天河で7千座の護摩修法を行い「灰練り弁天像」を造った
- 2009年11月22日に行った初窯の中には、**天河幼稚園の子供たちが作った数十点の器**も入った。式典には、**天川村村長、天川村教育長**も出席し、挨拶を行い、共に心から喜び、祝った。
- 彼らは、この天河火間が、**地域文化活性**の貴重な施設となり、場となり、機会となると大きな期待を寄せている。

新しい死生学への挑戦

KAMI MI

鎌田東二
近藤高弘

火水

新しい死生学への挑戦

鎌田東二
近藤高弘

ISBN 978-4-000-0060-0
C0060 Y0000E



9784810427097



1920026019000

定価 本体2500円(税別)

松岡正剛

二人が続って、
土であって天で
ある器を生んだ。
これは青くて、
これは塵ばしい。
世には「告げる器」
というものが
あっていい。

コンドールの
火。カマタの
水。

「コン」を練る！

見付書房

「コン」を練る！
見付書房

「コン」を練る！
見付書房

「コン」を練る！
見付書房

天河護摩壇野焼き講の特色と二大提言

- 特色：
 - 縄文時代以来の野焼きと密教の護摩(修験道の採灯護摩)を融合させた。
- 二大提言
 - ①高野山一天河古道復興(弘法大師空海が歩いた高野山と天河をつなぐ古道を復興し、そこを「歩行(ほぎょう)」する。
 - ②一般に骨壺と言われている遺灰を入れる器を「解器(ほどき)」と名づけ、自分のものや、近親者のものを時間をかけて作り、みずから焼き、生と死を見つめる機会と時間とする。

火 天

天と地を結ぶ文化の祭典、開幕
 アートワーク「天河火間」
 天の水と地の水、天の火と地の火……
 天と地が、火と水が、相呼応し変容し、結ばれる。
 偉大なる自然の営為、原理のつながりを全身で体感するとき

縹緲な
 清冽な
 水と
 冷火の
 炎

「天河火間」造営記念
 近藤高弘アートワーク
 火と水の融合

期間：2009年11月2日(日)ー28日(日)
 場所：天河大辨財神社 鎮魂殿「高倉山」

主催 財団法人天河文化財団
 協賛 天河太女神楽 護摩壇野統講
 協力・提供 電気硝子建材株式会社

間

河

財団の活動拠点（奈良、吉野・天川村の中心地、天河大辨財神社）鎮魂殿前に
 築かれたばかりの火間（古代の陶芸窯）に火を入れ公開するとともに、
 火窯の制作者近藤高弘（造形美術家）のアートワーク、「火と水の融合」インスタレーションが発表され、今
 また期間中、種々の関連イベント & 奉納ライブがくりひろげられるのです。
 ジュブナムやギャラリーといった近代的な制度から生まれた
 ニュートラルな空間で成り立つ表現行為の枠組みを踏え、
 わが国の歴史文化が培い、感応してきた時空間に、「現代」という新たな生命を吹き込みます。

11/2(日) 9:00am-6:00pm……火間(窯)あぶり
 3:00pm……「土々」ワークショップ
 11/22(日) 2:00pm……「天河火間」火入れの儀・初宴
 7:00pm……奉納ライブ

関野弘幹 音楽家・プロデューサー・アーティスト

90年、音・IC DIGITよりワールドデビュー。ハリウッドなどの音楽演出や海外の俳優・CFなどの音楽制作、
 伝統楽器とデジタルサウンドを融合したアンビエントミュージックは世界のメディアでも広く紹介。
 またライブワークとして国内外の各地での奉納演奏も続ける。天河では昨年、鎮魂殿に奉納する。

大森俊之 作曲家・プロデューサー

ポップスからサウンドトラックまで幅広く手がけるコンポーザー。エヴァンゲリオンなどの主題歌、
 邦楽界「三つね」の制作、などの実績も。今年、新録アルバムと出会い「MST」(MST Impression)を制作。

遠藤筑及 作曲家・アーティスト

これまで、5枚のCDアルバムをミニアルバムより発売。内容でコンセプトされている。
 また、赤土芸術祭でもあり、タチ山正則と共催として、数種の音盤がある。

竹中あこ ヴォイスアーティスト

自然モチーフにした楽曲。古今東西の歌の歌を歌うほか、スピリットの音や、魂の音で歌います。
 CD「Moon Chant」発売中。

ISIS ATZUMI パフォーマンス

ペリクレス・チーム「インカスリスエンブレナ」を率い、超感、大部分動物に音楽を公演、その精神の一面は
 「古代祭壇舞踏祭典」の色彩を濃くもたらす。また、ソロ活動に賛助の費い、「インカスリス」を出版中。

鎌田東二

近藤高弘 作 出演予定

11/28(日) 2:00pm……「天河火間」作品発表

財団法人天河文化財団 総務課 近藤高弘 財団理事長、大妻美奈子 天河大辨財神社 司宮

古代、清冽な水の流れるに誘われて、浮世離れの道にたづねたという天河大辨財神社（天河大空、空堀がもろ
 聖域として聖域されてきた水・土神・五穀の女神、神根天を祀る神社）、その聖域には誕生しました。
 創設の設立目的は、美しい日本の自然環境の保護と自然、伝統文化の復興、保存・伝承、また人材育成に努め、
 伝統的な文化の継承と発展と、また、ソコ活動に賛助の費い、「インカスリス」を出版中。
 それが聖域・天河の文化財団の多岐多岐な活動です。

鎌田東二 天河文化財団 護摩壇野統講 講師、音楽学者、京都大学こころの未来研究センター教授、神楽シンクタンク

1997年より、13年間2月3日の歌合祭の探検隊の隊中の中で上の作品を入れて、護摩壇野統を出版者として出版も土神
 現在、京都に住み出し護摩壇野統を実践。また、神楽シンクタンクとしても、各地でコンサートも開催中。
 著書に、「聖地巡礼」「神と山の山道」(山科野統講) など多数。

近藤高弘 (造形美術家)

毎日ペーペーにガラスや金属などを用いた作品を制作。スワットマシンなどの移動装置は日本国内でも多くの展示会を開催。
 日本自衛隊と多数の美術館に作品を展示。天河では13年間アートワークとして、護摩壇野統の中で
 作品を発表し「インカスリス」を出版中。そして今年、「天河火間」として9月10日開催として発表を制作。

財団法人天河文化財団活動の第一弾「天河火間」



近藤高弘 (造形美術家) 毎日ペーペーにガラスや金属などを用いた作品を制作。スワットマシンなどの移動装置は日本国内でも多くの展示会を開催。日本自衛隊と多数の美術館に作品を展示。天河では13年間アートワークとして、護摩壇野統の中で作品を発表し「インカスリス」を出版中。そして今年、「天河火間」として9月10日開催として発表を制作。



「天河火間」、それは、宇宙船のような…







節分祭 護摩壇



**吉野山伏と
羽黒山伏との
協働**





天河護摩壇野焼き講



2010年2月3日



護摩壇の中から解器や
作品が次々と出てくる





解器ほどき

2011年2月4日天河護摩壇野焼き講の窯出し











近藤高弘作「自画像：再生」



近藤高弘「自画像・再生」



**2015年9月12日、朝6時からの高野山・無量光院
(本尊:阿弥陀如来)のお勤めで、大重潤一郎さん
と岡野恵美子さんの菩提を吊っていただきました。**



わたしは、

- 病院で大重潤一郎さんを看取り、2015年7月27日と28日に行なわれた「大重潤一郎監督を偲ぶ会」(お通夜)と「お別れ会」(告別式)では司式し、偲び言を奏上し、石笛・横笛・法螺貝を奉奏しました。
- そして、1ヶ月後の8月29日に、NPO法人東京爺祐大学主催の「大重潤一郎監督を偲ぶ会」で口上を奏上し、岡野恵美子さんが締めめの挨拶をしました。
- そして、そして、その1週間後の9月5日に、岡野恵美子さんのお通夜が高野山真言宗の法式で営まれ、石笛・横笛・法螺貝を奉奏しました。

ごく最近に起こった、とても身近な二人の死を
通して、改めて考えてみて、
「スピリチュアルケア」とは、

- 「ものがたる」(祈ること、儀礼をすることも含む)
こと
- 「そばにいる」(死んでいても、生きていても、離れていても)
こと
- 突き詰めると、それしかないような気がしています。

その「ものがたり」

の中に、核に、

- 「祈り」

が込められていると思います。

「ものがたり」と「そばにいること」

- それによって、
- 分かち合うことのできる世界とぬくもり
- それ以外のどんな方法論も空しく思える時があります。

ものがたり？ 死者との対話？

- 生者(遺族・近親者・関係者)との対話？
- 自然
- 時間

5日前、深夜、突然、次のような歌が口を突いて出てきました。

- 「**神岡野アーメン**」という歌です。

アーメン アーメン アーメン アーメン アーメン
オー マリア オー マリア オー マリア オー マリア

**神岡野 笑みこ（恵美子） ぼれ満つ うつしみの
君の面影 天翔り往く**

アーメン アーメン アーメン アーメン アーメン
オー マリア オー マリア オー マリア オー マリア

「スピリチュアリティ」と「スピリチュアルケア」の定義

【スピリチュアリティ】

- ①全体性(まるごと)
- ②根源性(ねっこ)
- ③深化・変容(ふかまり)

をもたらす生の羅針盤(いのちのコンパス)

【スピリチュアルケア】

- 嘘をつけない自分や他者と向き合うプロセス。
- 「体は嘘をつかない。だが心は嘘をつく。そして魂は嘘をつけない。」
- あいだにあるはたらきを感知しつつ、まるごとの素の自分を見つめ、いのちの帰趨に向い合うこと。

「道連れ」「気づき合い」「気遣い合い」

- 「こころの道連れ」
- 「いのちの気づき合い」
- 「スピリチュアルケア」が本来的に包摂する他者性
- 「上求菩提下化衆生」の自利・利他両備の菩薩道性
- 「スピリチュアルケア」とは、自己探求と対人援助の両者が分かち難く結びついている

「スピリチュル」五則

- 1、スピリチュアリティ(靈性)の三要素は、①全体性(まるごと)、②根源性(ねっこ)、③深化・変容(ふかまり)、である。
- 2、スピリチュアリティ(靈性)とは、「生の羅針盤(いのちのコンパス)」であり、「道(Way)」である。
- 3、スピリチュアリティ(靈性)とは、「独り」でありつつ、「同行二人」である。
- 4、スピリチュアルケアとは、「あいだ」にあるはたらきを感知するスピリチュアリティ(靈性)の臨機応變的発動である。
- 5、スピリチュアルケアは、「生態智」(「自然に対する深く慎ましい畏怖・畏敬の念に基づく、暮らしの中での鋭敏な観察と経験によって練り上げられた、自然と人工との持続可能な創造的バランス維持システムの技法と知恵」)によって磨かれる。

スピリチュアリティとスピリチュアルケア

- 「スピリチュアリティ」とは、
「嘘をつけない自分や他者と向き合うプロセス」
- 「体は嘘をつかない。
だが心は嘘をつく。
そして魂は嘘をつけない。」
- 「スピリチュアルケア」とは、
「あいだ」にあるはたらきを感知しつつ、まるごとの
素の自分を見つめ、いのちの帰趨に向い合うこと。

「スピリチュアルケア」を日本で考え、 実践する場合の「日本的な制約」

- 古来、日本人は「草木言語(くさきこととう)」と考え、それが「草木国土悉皆成仏」と命題化される天台本覚思想の日本的靈性論にまで発展した。
- このような文化風土における「スピリチュアルケア」とは、必然的に「ナチュラルケア natural care」(healing through nature)とでもいうべき自然の力動の感受と深く結びついている。cf.「風土臨床」(加藤清・精神科医)
- そこで、「人が癒す」、つまり「人間関係の関わりの中で支えられ癒される」局面だけではなく、「自然が癒す」、すなわち「自然と人間との関わりこそが癒しと支えの根幹となる」という事態があるということも「スピリチュアルケア」の問題として考えると必要がある。

ありがとうございました。

